

第1回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会

日時：令和6年6月17日（月）13:30～

場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

議事内容

○ 「中ホール整備の方針検討」

〈委員からの意見・提案〉

- 未永く幅広いニーズに対応するために必要な機能について（資料7）
- 音楽と演劇は、残響音などにおいて適しているとされる環境が異なるため、音楽と演劇が両立する多目的ホールを実現するために、どう工夫していくのが重要。
- 大ホールの開館から時間をあけて中ホールが開館するので、スムーズに連携した運用ができるよう、早めに管理運営計画を検討しなければならない。利用料金が高くなるのであれば、市民が使いにくくなる。料金についてはしっかり検討しなければならない。
- 大ホールと中ホールは整備されるビルが異なるため、再開発組合も別の企業体となるが、円滑なコミュニケーションが取れるように行政の方で心がけてもらいたい。
- ビルの中に整備される場合、空間の制約が多く、舞台袖や廊下などが狭くなってしまっているホールが多いので配慮してほしい。また、音響反射板をどう備えるかなども十分な検討が必要。
- 転換に時間がかかるケースが多い。中ホールは稼働率が高くなることが予想されるので、転換のしやすさに配慮して設計してほしい。
- 搬入について、トラックの留置きや、それが無理ならばトラックをどこに置いておくか、よく検討しなければならない。
- 客席について、高齢者の方が歩きやすいよう、傾斜や手すりなどに配慮してほしい。
- 演出面を考えると舞台面のバトン数が重要になってくるため、しっかりと確保してほしい。
- 客席について、舞台全体がよく観えるように設計する必要がある。
- 楽団のレジデント機能について（資料8）
- 現在管弦楽団と混声合唱団が活動している。レジデント機能を持つにあたり、楽団から練習場、休憩室、楽器庫、事務室など最大限の要望をお伝えしたい。
 - ・ 大練習場の整備。天井高が高いことが望ましい（現在の練習場は天井高が低く音響が悪い）。
 - ・ 混声合唱団が使用する中練習場の整備。天井高が高いことが望ましい。

- ・ 10名程度で練習できる小練習場。
- ・ 食事等ができる休憩室。
- ・ ミーティング室。
- ・ 指揮者・ソリスト用の個室。
- ・ 現在の3~4倍ほどの広さの楽器庫。
- ・ 楽器庫から練習室、リハーサル室、搬入口への動線。階段、段差がないことが必須。EVの場合大型EVが必須。
- ・ 大ホールと中ホールを結ぶ専用の渡り廊下。大ホールと中ホールの高さが同じであり、水平であることが望ましい。
- ・ ライブラリアン、副指揮者などの作業スペース。
- ・ 衣裳小道具の倉庫。
- ・ 楽団の事務室、ロッカー室、応接室、ミーティング室、チラシ等を置く倉庫。
- 市民もホールや練習室を利用したい方は多いので、レジデント楽団だけが優先の考え方になると、反対される方もいる。市民の利用も踏まえて使い方をしっかりと考える必要がある。
- 将来的に神戸のシティプロモーション、神戸のイメージアップ、文化力アップのために楽団をより活用することが求められるのであれば、現在の活動を増強するなり演奏回数を増やすなり、充実させていく過程の中でレジデント機能が意味を持つ。市民にその活動を理解されてこそその管弦楽団であり混声合唱団だと思っている。

以上